別けて吾人は2

新力忠良なる臣民たるの は自治の發達に意を致し、 で誓ふ、殊に本年は普選の 動勢力忠良なる臣民たるの 動勢力忠良なる臣民たるの

迎を年四和昭

はあらず、年新たなるご同時に、舊きを省めて、新年何がため喜び、何がため慶すとあらず、年新たなるご同時に、舊きを省はあらず、年新たなるご同時に、舊きを省はあらず、年新たなるご同時に、舊きを省はあらず、年新たなるご同時に、舊きを省はあらず、年新たなるご同時に、舊きを省はあらず、年新たなるご同時に、舊きを省はあらず、年新年のかれ、一月にあり、一月の計にあり、一月の計にあり、一月にあり、一月の計にあり、一月にあり、一月の計にあり、一月にあり、一月の計にあり、一月にあり、一月の計になる。

月長きものなれ、町 改め及ばざりしを補 はあらず、年新たな。

らゆる方面に全力を盡し、4相三年を送り、この新春を収度さものなれ、聖上陛下御品

を御神を記しない。

發行所 磐城自治新報社 天王崎四四番地 天王崎四四番地 廣告料五號十二字話一行金五紙代 一部十錢送料共

野晋

平の は松 る日 0

代を壽

万戸皇連の加えるというでは、一方の一旦では、一方の一旦であった。

の無窮を祈り蒼生聖の如く千古變らぬ我へながらの白雪を戴へた 一古變らぬ我を変に懸りて靄々 たま空に懸りて靄々 たまでに悪りて靄々 たまでに

や学が頭

でに映じ、

5和

かなるに

なる旭光

瑞雲空に変象の聲

一気! 体はり

氣輕に

更かし

乗るも松の内

関

持たせられ

在鄉軍人分會長

屠蘇にそめ

岩並

昌

75

水野

渡邊村村長

為清

清世界廢造元

兼 編 辑 行 人 人

蒙行日一日十五日(每月二回)

屋

話

爾話六番 世の塵を逃れて住める朝日かけさす 豊榮のほる 親子共に樂しく暮す 新玉の年の初日の 酔さまし心よき銘酒かな 酸造元 赤 花井の昼霞造元 都 山田の里の煙に 松の緑に照り 豊かににこみ 豊かに見ゆる Ш 0 P 初日かけ 賤が家に さしそひて 鄉以 御代をことは 大平睦 家 **一种工工工程** 津 山のいほ 里の腱ガ家 朝 Щ 郎カルタ會遊び足らない後を 暮れかゝる町を万歳 血に失せた昨日の顔を あね妹古い羽子板 木樹院議員 **平消防組頭** 衆議院議員 將會議員 井 此佐

满

高水

倉松

に 雄心猛志 で立ちて

漁り火を後ろに 新 # 拜む初日の出 の H 旬

年賀狀郵便局で年をさり

湯本町長 NO THE

THEXX 小名濱町長 嗣 鈴木 小野八太郎

佐《木健一郎 石城郡平町 石城郡平町 波邊村村會議員 瀬谷米吉

處

國

丒

美

水山

定秀

渡邊村

茂

本村宰協 業組合 丸山慶治 濱街道土木

信岡錠吉郎 政 Æ 雄

小名演町

碧崎消防組頭 若松类太郎 若松總太郎 并坂千代松 錄 郞 郡 近 佐々木善作 副

小名濱町

醉つてゐる

電話六四 福尾伊太郎 安雄 小名濱町

台に出て大いに活躍せんと

します 私等が南米視察のあらましを御傳 頭に際し 磐城自治新報を通じて

VC B

慶應義熟大學南米視察團一員

次

見學に出かけたことは時節ぶべき現象である、而しい はる――南米ブラジルまで|の此驚くべき増加は寧ろ喜 の聲を揚げた福原八郎氏のを強大ならしめ其發展を助 業界諸名の後援により呱々 からの應募者を出し の肝入りで實情雲が低迷し始めた。 長するものである、人口増 加が停止し或は減少するこ 、口の増加 は民族のカ る、

或は博識諸兄の御冷笑を被何等かの方法で海外大發展 |の一團が万里の波を蹴つて|してゐる、此故を以て我國|ゾンの千古斧鍼を入れぬ廣 明治の御大業も恙く成得ない所である。 見て廻つたものだから充分||糧問題解决のすべてこはた 生が三十余日で云ふ限られし方あるまい。 こさと思ふ、然し末熟の學しても之を養ひ切れねば致 **| M誠に意義あり興味のあるかに慶賀すべき現象なりと** 視察し得られる筈はない 短時日の間に伯國內地を海外移住 を以て人口食 からない。 今日吾々若き學生|とは即ち民族的滅亡を意味|息所としてゐるあの大アマ り得ないとしても、 が行はれるは誰しも否定し やがて

進展するかと考へ見るに先 然らば果して何處の方面に るを感ぜざるを得まい。

れに附隨的に起る諸種の社るが滿州は兎も角として不 の瘤として各國より多大の ある、なる程至極結構であ として南米に移住した一口 にこそ南米へとは言へ 版の我同胞は志を抱き續々 力治四十 年 より此方燗 一万|必然的に部屋貸しを拒む時

後に北米は?日本人發展に は其規模小なる感がある最の上からとは云へ其處に彼ろう幸にして其人に勢働の たなかつたのに驚きの目を其家の最初經濟的逆境に 等を迎ふる温き何ものも待 した長途の航海を終へて彼る者は其時を豫想して豫防るかの如くであるが然し 地に上陸したる彼等は覺悟策を講せざるを得ないであざつこい 決断力を必要と 余力あり資本力ある時にはテ 間借人成る樹が

が來るだろう

本の緊切なる欲望要求を滿の如き彼等は淡き絶望の二家にどりては大なる恩人で に泳ぎ意のままに活動し得したのである案の定表き冬|に到りて始めて彼の安住所 てゐる、日本人にして自由 注いで見るい 今目を更に一歩遠く南米に してくれる別天地が横はつ みを期するを得ない。而し 禁止されたからは彼國人の は好適地なれご我移民人國 其處には此日 字を頭に秘めながらも遮二ありなくてはならぬ幅要の 無二に其目的に向つて突進人物となるであらう、此所 たのである、されど意思鐵ねばならぬ、やがて彼は此 生きながらの地獄に彷行し 案内言語不通季候食物の急己の勞力を供給して生計の 見張つたのである。地理不 變に惡疫の流行とさながら手助けとなし資本を投じて り勞働力不足せる時代に自 傾きし家棟復興の礎を作ら

|を失つた大自然が最後の安|等の血で汗での結晶でも云 科學の力、文明の光に壓迫 る廣い廣い世界が待つてゐ 氣候は良し土地は肥え一彼等の頭上にも次第に温き一勞動力により得られた は秀氣馨豊たる花が咲き誇 |ふべき數千万本の珈琲樹に |的努力は報いられて水た彼|けねばならぬ、彼國人にし 春が訪れて は何時までも續かなかつた 來た彼等の獻身|現基礎の上に文化を植た付彼地に於ける成功者五人が |て日本人の手になる飲食物|をした後で付け加へて云は り出さる器物を用ひ衣類を|せて家に歸 か得らるるのである。 をどり、 |我々に一條教育(参考)講話| れたのに「

|大無邊の沃土に無盡藏の富り彼地に我國の堅き礎は見身に纏ひ我經營にかゝる病|晩饗にピンが(甘薯より取|と 植えつけて始めて植民の目 事築き上げられた、此礎を院に安んじて其生命を委しつた酒」の一ばいに疲ねを 上に美しき我國文化の花を ~化建設するの事業こそか 層堅固にし此尊き土台の の手により彼地に新した が果されるのである。日本 |りと云ふを得るのである而|此十數年間の勞苦がまざ |て我日本移民事業は完全せませる暇も無く働き通した|生 學校に其子弟を託ず等すべ、慰しながら窓越しに生育し して此を得るには勞働者の て我交化の恩典に浴し其中切つた珈緑々とした珈琲島 安んじて生活する時始め を見渡す時鍬を持つ手を休 トと浮び出しそぞろ涙を お湯に入り

|的良風吹き始めたる曉には||導せられてゐる所を見るに の之のみにては他家に間借 ると思へば其責務の重大な 云ふ我等青年の雙肩にあ 南米へさえ行けば直ちに金 |大擧して南米へ!そして我 |あらゆる階級は足並揃へて|ちして來ます、今となつで|妻 |背後に大資本が控えねばな||考へれば其涙の裏には又一 みに委せては居られない其催します然し現在の境遇を 今日本內 ません、日本へ歸へらう等で は此様な呑氣な世界はあり 種云ひ知れぬ喜びが満ち満て 何 の妻子が病床に伏せる程」ふ次第である。 日の勞苦を忘れしむべき一轍を踏まれぬ樣御注意を願 が病に倒れ、又彼をして|熟考せられそれら大悲惨の あり運命の開拓者たる男もあることうて熟考の上尚 の機關である。 めなもの

かり こと無條件に想像せしめられ が儲る、 線リソス市に到着した時 我等一行がノロエス 一面に生えてゐる そう手易くは行 ひ得なかつたのであろう **涙無して彼はは此喜びを|末開地に入りて** を拓く者が風土病に見舞は

要とする山が高ければ高き、默視するに忍ぶまい彼等の を開拓せんとする人口に|信するのである、彼地に新 努力にも足りないであら、諸方は此事情に着目せられ りては鯛釣る前の虫取りしく生れた日本同仁會會員 の原野に行きて日本の運を一般同胞の義務なりと確 の坂道此努力それ等は南し悠々斧鍼を振はしむるこ 坂を上らねばなるまい」り幾分にても其負擔を輕く 其頂きに達するには長き|生命に對する不安を取り去 非常な努力で忍耐とを必るも吾人は手を束ねて之を ある然しそれを見出すに|れ位の覺悟は當然のことな 米には金の成る樹は一面れるは住々聞く听でありそ

440 心たものは將來衛生設備され易い諸種の病の豫防法 八に此度 完全にしたいことでありト配付等極力疫病撲滅に努 大なる此一つが忘却せら現象なれど何分にも宏大な 教育機關とを出來得る限治療法に關するパンフレツ てゐたのは誠に殘念であ 海外移住に際して最力し居られるは實に喜しき の見學中深く アラリカに對する捕酸キラ る範圍に渡ることうて充分 ネの無料配分、其他最も侵

日の勞働を濟 ては體が唯一の資本でありも平野植民地の如くアプリ他郷に動 くるのにとりされるサユバウロ州内地に としても此所まで基礎も出資本と適當なる人材を彼地かつたことは止むを得ない。諸兄に後援を依頼し相當の 其方面を考慮する暇の無の結果として日本人内地のた之までは建設時代にし|手の届く筈はない、其當然 あるう一家生計の支持者|性者を出した等幾分の先例 子の健康が唯一の樂しみ下大流行の爲め百有余の鬱 ならしめ教育は將來を囑高き諸名士の熟慮調査の上 務めではなかろうか、衛彼アマゾン興業株式會社のるは、全日本人の重大なよにつれても案也らる」は 是非こも此方面に注意さり他に無のである、之を思 移住者の數の増加した今に移入し目的を貫徹するよ せらるる第二世養生の唯のことうて万利漏なきこと は海外移住者の生命を安移民移入問題である、見識 とは信ずれど最も良く開拓

はないのである 、以下次頁へ續く)

酒を飲み花に戯れると云つ

は総合何等かの利收を得る

出發三四ヶ月の日數を費

たので、本年五月サンパウは信するが若輩の身を以つ

ニ於テハ吾々ハ少クト 得ルノダラウカ、ソノ ニ於テ何處ニ磐城性ヲ

礎が安全し幾分の暇も

のものはアツケンジー

大學松松之助渡邊等の諸幹事の

而しながら植村勝治若

質直なる御努力により着々

海協さしての任務を遂行せ

もはや學生の五六る、

籍をおき、

卒業も目近か

 (Ξ)

さする人物である。

伯國は|完全なる教育機關

しのぶまてゐるのではない、伯國に 働いてくれる日系拍國 同化し伯國の利益の為めに 求してゐるが拍國 ない性質の異國人を要求し 條件もて日 本人勞働を要 と相容れ 精神的訓練を與ふるを以つ をあづかり之に知識を授け 我日本内地にで他家の子弟 流動性を阻止する所 生する一方を等一般移民の する所以は之等後繼者を養きの欲する所に合しな所に 心强く肩幅廣く感じたの れるのである慎重考慮すべ 始めて真の日条親善が現は きことく思ふ。 此度の旅行中自分が最 極まるアマ 傑人で席を同うして其壯快も他に依りて事を完うすと ものがあらうと思ふ。 門せられた時に

ゝばうる所大なる ゾン横斷の談で

ずる次第である。

き青年は精神を引き

以テ自治ヲ

つてゐる、吾 べて誠意を以 剣であり

い動して其止る時を知らな

く絶え間なく

い世界文明

活動の

まわし一大活躍しうるだけ 台に於てこの大國を向ふに

に其曙光が

の意氣こそ誠に必要かと信

は一日この

事の前の

小事己れは死する

ある、

實でありす

生活ヲ離

レテ

要求してゐるのである、 我日本の子を養育せられん ことを切に希望いたす次第一精勵さとは、 て務めとせらるる方々は である。 一歩外に出て更に大いなる 人の目 るかの等の實直さを驚くべき り多大の信用を勝ち得て各 けて我福島 りで

地に大活躍すべき運命を授成 とは元來日本人は祖國を愛 けられてゐるに就いて特に 日本人が 日本人として注意すべきこ 將來南米の天|地根强き基礎を作り多數の ナマ運河にて一行と偶然ア である、南条よりの歸途パ 縣にとりて誠に喜しき現象 比して毫も遜色なき大活躍 が期待せられてゐるのは吾 し將來他縣人に



し今や大平洋上 心は次第に西へ西へとい動

あらはれて來た、 大なる陸海軍を擁しすべ は此封建時代のそれに似て 物質文明其極頂に達し偉 一を標語としてな学に 桑國を見 も其精神 所であらう。

大

ニラ丸に同乗せられた小林田大いに見るべき所ある 育に専心せられると云ふ燗とは甚だ遺感とする所であ 面に於て極些細事ながらあ 人會どの間に意思の流通の れ吾縣人の海外發でを大い 結果不和を生じつゝあるこ 矢先同會支部と北 采福島縣 外協會なるものが新設せら 郎氏を會長として福島縣海 磐城ハ磐城 何人ニ取リ開 ハ吾々ノ爲メ存在デアリ 々ガ之ヲ開 手ニ委ネラ 人ノ 磐城デナク 資源 利用ス

居を構へられ早くもい民事

に助長せられ

目をつけなれ現在サンパ 業の根本たる第二世養育

ノ吾々ノ 慰安ヲ感 地上 シテ幅ラ斗カスコ 吾々い自己

るも恥 居タ

を必要と ことである我の求むる所 さもこれが成績を擧げたる この珍しい お客が吾縣を訪 に関ゆ

|性質を帯びて來るのである||世こそ我國にとりては虎の|は立派に世界の表面に立つ||てブラジル、サンパウロ に 本で送らうと一途に成功を 生を終るのである、 吹きまわる景氣不景氣の風 急ぐのである かにては彼等を滿足せし ちに急ぐ又一方當て損じた けて日本へ歸ろうそして子 は永住の地にして決して腰 出向かんとする諸兄よる地 そして今年はカフェーに來子より大切な後繼者である。てゐる獨立國である上に今 る彼衛生教育の不完全の に足りないことは勿論で 血眼になったかの等は當然 始めて大事業を爲し得る かけ所に非ざることに留 結果として非常に投企的 遙を與へることが多いの (娛樂設備の不完もあ 一日も早く金を儲 小金を持つて直 愉快な生活を日 年々農家を 種の精神的 人間に伍して其社會に活動 此所に於て吾人が最も意を後第二の北米即黄金國とし するでなし精神修養を行ふ官民の望みつゝある所を深にあり其他の熱生も追々其 ご云つても日本の指導者を其結果して日本政府及じ を教育ー我信望を背負ひ立に此偉大なるなる富を藏す設立せられ内外人子弟の教 如何にして之等第二、三世|あることは事實である然る|中市に聖州義熱なるものを らねばならぬ即此第二、三 あるものは此日系拍人であ し日本文化植付けに真に力 必要とするのである 一向おかまひなく朝な夕な 程の立派な人物に作り (吾か ひなければならないのはて天國に覇を稱ふる可能性 一行の紀念寫真) 國であるとは言へ國として 資本勞働を要求しつゝある 非難を受けつゝあることだ 立場から考へて之を遂行せ 國企業の財團等がブラジル んとするのであるがこれで く考へもせず唯單に自己の後を追ふさのことで先づ基られてゐるのを見れば又大 國を日 ば輕く見る傾きがある眼の士、 本は國際的に轍も

美登利先生もやはり福島縣

十數年世界各國を經廻り歩

生の安住所と

故郷を離れること

まり面白から したのである。

治

自

城

邊常彌氏談



牛馬豚羊何れも好く牛育發一つたりした氣分が溢れる棲 ラジルは日本國土の約二十|自由はなく、 の國といふ意味にもなるブ

める街も奇麗で大陸的なの

で規則正しくやり周圍の望

仕事は背時間

を收め今や巨万の富をなし を二三越した位の働き盛の て居る。 土に積跼するを屑よしさせ 朝中の渡邊氏を其生家に訪 記者は此度ブラジルより 十七年前决然意を南米ブラ 人である、此度君は國家的 て居る限りある土地に限り のるかを思はせる。

す海外發展を割し今を去る|聲は日に月に昴する斗りだ|の樣に氣永で極寬容で他の |萬今や六千余万と累進し年|盛んである、故に國は富み|すぐ参りますがプラジルで |ない人口の増加は如何にす|か出來ね、明日のパンの心| 度う御座います、今年は誠 配は毫もない、國民は前述に嚴しいお暑さです皆日ん 幽の何處を探しても聞く事 生計が簡易で生活苦の聲は 遠する、農業も商業も頗? みよい處なのです。正月も

お變りも御座いませんかど

ण्य

H

會議員一同

平新川町

言野

Fif

阿华

旅館組合

組合長

T

井 淸

阿剛

開業七週年紀念トシテ

大谷時

電十九番

當店ニ御越シ下サ (當店ニ御越シ下サイ) 値ニテ差上升カラ是 盛りに來ます、新年御目出 は、正月が冬でなく夏の重

江

E)

邳

MJ

石城郡平町

なか

や洋服

野邊藥店

田

à

城

ジルに馳せ、遂に一大成功|他の人口政策は吾人與せず|人も皆親切で悠長で交際も で君の談話は左の如くであ 見地より南米移民を奬勵す外事情を見るに南米は土地に呆れ腹を立てたり憤慨し 年業漸く不感の域|の本領を揮つて君國のため|もありません、初め日本か |飛躍するの如何に痛快事で|ら行くと大抵な日本人はブ|次から次へ縷々として盡き して余り適當なりとするにの時ブラジル人は落ち付い 一次く樺太や満洲は耕作地とたりする人がありますがる|中越し下されば御紹介申し 憚る狀態にある獨り南米ブにもので「テンパシエンシ 大に海外に發展し海國男子少し氣質を吞み込めば何で」もありませんが、年賀の拶 ルクスやマルサス其他各|外國から移住して來て居る 而も称|ラジル人の余り氣の長いの|ない尚ブラジルの委細の專 挟はするのです」を話しは げます(文責在記者) 標な感じがして正月らし を知りたい諸君は貴社迄御 いふので一寸日本人には異

たが明治維新以後國力の進 間は人口約二千五六百万人 食料問題を考ふる時如何の民に適する地と云ふ事が出忽前をなさい、辛抱が第 感があるか徳川時代三百年 目今我が日本國の人口問題 いはれ余り増減るなかつ。九万ご稱せられ目下毎月約 さなり明治の初年には三ら苦しい暮しを立てるより 余萬大正初年には五千余余程樂である、それでブラす然し本縣からいふさ本郡 七八百人が渡航する、内地 民数は大正の終り頃迄に約言る事です。永住の見込で | 水る、日本人のブラジル移|です急いではいけませんと ラジルは實に吾人の最も移 すが何れも成巧して居りま 行けば成功数ひなしです ヤ」と云へますその意味は 幹事會計補佐 **覆三郡土木業組合** 太田亥之助

邊長

1/E

町华

二業組合

和

漆器店

久 東 太 三 三

電四〇五番

草關小加諸山安

只野忠康

藝者家組合

組合長

X

111

石郡郡湯本町

平町料理屋組合

草野岩三之助

福島縣染物業組合長

各炭礦御用達

佐藤材子

相馬郡石神村

平町新川町

佐藤藤助

組合長

信用 用 租 責 任

本役場書記

比鯨

佐岡

覺

太

違つて居る島國的氣性でH で之がブラジル魂でも云ふる地方青年諸氏にお奬め 本人は功を急ぎ一般に氣短た次第です、來三月には又幹事 明日(一と延ばして行くの 明日の國、一面又將來有望 べきものである、 明日主義」と云つて何事も|め又同胞のため大に働くつ を勧めたいと思つて歸國し れで此の最も有望なる移民 れるので衝水慣れば別に不 再び彼地に渡航しお國のた て戴きたい何しろ物質は安 むりで居る。是非貴社から いが今は色々なものも作ら い只日本の品物は中々に高 澤文太郎 中清太郎 德次郎 石城郡湯本町 双葉郡長塚村 石城郡华町 石城郡平町 平町 平町 松崎冼張 電話七七〇番 鈴木留五郎

會計上 猪狩菊三郎 山新重郎 司 石城郡大野村 相馬郡原ノ町 卷造 石城郡小町 平町 平町 A 并吳服店 商 店 渡邊德之助

村

木 店

燃 坂本龜太郎 油味噌 造業

高鈴久內 木木 PO

检長者

松

館組合

高坂若長 原本松 利 1]0 次康惣 郎太次

區 濱宮大松若吉岸石上鯨膏鯨木小渡村矢

五三之助 那 柏鯨鈴生此靜白山渡佐比 木岡木田佐法土本邊藤 七郎司一造彌助藏渡衛司

正吉丈

年 新 賀 謹

好間 等太郎 一季 太郎 一季 太郎 一季 大郎 一郎 一季 大郎 一郎	温本運送株式會社 四ツ倉電気株式會社 社長新妻 盛	山添炭礦株式會社山添代次郎	田水力電氣株式會	小名濱水產工業株式會社 湯本信用無盡株式會社	三井礦山株式會社	羟城炭坑株式會社
青天目信二郎 一大 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本		山田屋別館	金 網 商 二一七番	方 賀 自轉車店 勿來驛前 電話二番 二番	勿來軌道株式會社馬 上 誠 一	局 長 電 材
入山尋常小學校 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	从玉	高等小學校 別 三 外職員一	林 木 商 電話七番	勿 來 町 津 一 電話四番	田口屋吳服店	勿來 信用組合 水 格 清 三十六番
温泉旅館 電話三十二番 電話四十四番 額	物 物 海 和温泉旅館 寺 立和 文 正電話八番舘 雄 隆	院 電話五十二 電話五十二	校長 八卷市平磐崎第二小學校	一	鳥 育 茂 内 内 内	勿來尋高小學校 一型山直三郎 一种職員一同 一种職員一同
和洋酒卸商 大井川酒店 市井の譽 港井の譽 店 店 店	和洋酒乾物製氷卸商和洋酒乾物製氷卸商 法 藤 酒 古 屋	建築請負 都 所 水 店 市番	建築請負 松本元次郎	平材 木	和洋御菓子卸 渡 邊 商 店	木 村 仁 吉 本 健 次 郎
	平明	ラジオの親玉	1 小精	名相 服 楽 店 へ 湯本町 小泉菊彌 岩 瀬 楽 店 へ 岩 瀬 楽 店 へ	海本町 櫛田義文 御田 材 木 店	施強は金ちやんの生命なり を